恵みと真理のニュース



2019 年 12 月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]



青年奉仕宣教会に属して信仰と従順の生活をするように私を変化させてくださった神様の愛と恵みに感謝捧げます

私の母は篤実な信仰で熱心に恵と真理教会で通いましたが、父はイエス様を信じなくて教会に通わなかったので父と母が教会の事で言い争いました。息子を愛する母をついて教会学校に通い朝早く教会に行くのが嫌でたまには父の味方になりました。ある日は、父を家に残して母と私と弟、皆教会に行ったことに怒った父は私と母を家に入らないように玄関のドアを綱でぎゅうぎゅう絞ったこともありました。

私はこのようにして必ず教会に通わなければならないのかと不平しました。父の顔色をうかがいながら適当に教会に行って来たら良いのに、どんなことがあっても礼拝に休まないようにする母が理解できなかったです。そうしながら、初めて行く小学部の修練会に参席しましたが、家に帰って来て父が私にすごく怒りました。それで、二度と修練会にはいかないと念をおろしました。無理やりに教会に通ったので説教の時間が退屈で信仰が成長しなかったです。

中学校を卒業をして高校生になっても習慣的に教会に 行きました。救いの確信がないまま義務感で教会学校 で出席して先生にも目の印を押すほどの教会生活をし ました。教会にいる時間を減らすためわざと教区バス の代わりに市内バスを乗って教会に行きしました。

高校1年生だったある日、夜間、自律学習を終えて家に帰って来たらある時と同じように雰囲気が違いました。いつも冷たかった父は初めて目に涙がたまっていました。父が私を呼んで衝撃的な話をしてくれました。母が癌に患ったから家族が心の準備をするということでした。その話を聞いて私は部屋に入って泣きました。初めて膝をまずいて泣きながら神様に祈りました。母がいないと生きられないので私の母を助けてくださいと切に祈りました。

神様は私の祈りを聞いてくださいました。心配した 手術がよく終えて母が早く回復されました。神様がも っと驚くほどの喜びを与えてくださいました。冷たく て不器用だった父が変化し始めました。家事も手伝っ てくださいました。母が平日礼拝の時間に遅くなると車で連れてくれました。前は父の迫害が酷かった時、母は私と妹が大きくなると別の所で住もうとよく話しました。手術に入る前にも"主よ、今このように主の懐に行きたいです。"祈りました。災いを転じて福となるということが乞うことなのかというくらいほど嬉しかったです。

しかし、私にイエス様は必要だけ探す主でした。私の 信仰生活は以前と変わらなかったです。相変わらす。 裏の空で礼拝を捧げて、神様に対する祈りも試験の 前に善い点数を取るように祈るのが全部でした。 あように大学だけ入ったら楽しくて幸せになると思いました。 しかし、大学に入学した後、私の期待感とと思い さで変わりました。幼い時から教会で母が酒ととば こをしてはいけないとよく聞かれて育ちました。 飲まなくて意味なく繰り返してお酒を飲む所に座って いるのがとても大変でした。それで、大学の友達 離を置いて生活をしまして大学一年生を終えて軍隊に 入りました。

軍隊で除隊した後、つまらない日常生活からより意味 ある生活をしたかったので部活をしようと思ってあ 連合部活に志願しました。人気ある部活だったので 接をしましたが、道を迷って面接の時間に遅刻して まい落ちました。そのようなことがあった後、長い 休期間にアンサン聖殿の青年奉仕宣教会の総務からわた しのため祈っていた弟から頼まれたと、遠慮がちに 年部の集まりと礼拝に参席を勧めました。生活に変化 が必要だった私は"一回やってみよう。"と思って青 年の祈りの集まりに参席しました。"

主日礼拝だけかろうじて参席しましたが、青年達が集まって共に聖書の御言葉を黙想してまた様々な悩みと問題を持って意見と経験を話しをして共に神様に祈りをする時間を通して大きい恵みを受けました。また、多くの青年達が教会の様々な機関に属して熱心に奉仕してまた、伝道に力を尽くす姿に感動を受けて私の信仰生活を反省し深く悔い改めました。主の中で正しく意味ある生活をするように摂理してくださった神様に感謝を捧げました。

その後、教会で奉仕しようと決心して幼稚部で奉仕をはじめました。神様は続けて私を変化させてくださいました。内省的で人見知りも多くて人の前で立って話すのが嫌だった私が子供達をとても好きになり、共に賛美して振り付けもして前に進んで行事を導きくよう

になりました。神様は私を変えて下さり担える能力も 与えてくださったと意外には説明できません。

幼稚部で奉仕して3年が経って怠慢になり、聖書を 声を出して読むこともおろそかにして、遅刻して教師 準備の祈り会にも休むことが多かったです。心を改め て部署を変えて新しい心と覚悟で奉仕する生活をする ように決断しました。高校生は愛する後輩達は過去の 私と違って固い心で熱心に神様を礼拝し教会生活をす るように助けてくださいました。それで、高校生の奉 仕を計画して神様の助けと導きを願い祈りました。今 年2月から高等部で奉仕をしようと思いましたが、総 務先生が時間があったら1月に開かれる高等部の修練 会に参席すると連絡先をくださいました。修練会の三 日目の夜、聖霊充満の祈り会に参席しました。その時 間、学生達と共に御言葉を聞いて祈りをしながら責任 感が出来て使命感が充満になりました。神様がまた私 を変わってくださいました。主日に幼稚部より1時間 30分早く始まる高等部の教師の準備祈り会に休まず に参席して学生たちに御言葉の一節一節をもっと教え るため熱心と真面目な姿勢で党会長の牧師の説教を聞 いてまた聖書を読んで勉強をしました。学生達のため、 教会のため切ない心で神様を仰ぎ祈るようになりまし

私の人生を振り替えてみると"人間の心は自分の道を計画する。主が一歩を備えてくださる。"(学校できる。"(学校にさる。"(学校にきず、という御言葉が思い出します。教会会会に近れてくないました。信仰がなるまずいていた私を母のため、大学生活、軍隊さなくないました。かられました。があるとに入っていた社がある生活で導いてくださいました。部活に入ってもはなるを受してもいました。宣教会に属してくださいました。で本になるになるとはないました。宣教会に属してくださいました。で本げたことがないった私が高等を持ってもでであれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていました。であれていまいました。であれているといまが出まれているといまがあるといまがあるといまがあるといまがあるといまがあるといまがあるといまがあるといまがあるというというではいませんがあるというできないました。

与えてくださった愛と恵みを考え神様に感謝と賛美を捧げます。いつどこでも神様に栄光を捧げることを願い、主をもっと仕えるため足りなさがないように同行して下さり、強くて大胆な信仰を与えてくださるのを神様に願います。ハレルヤ!

A Property of the Party of the

[信仰コラム]

大きくて驚くべきな福

"この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである..."

聖書にもこの世での安寧と繁栄を神様がくださった福だとしました。しかし、そのようなことがイエスキリストを信じて害になると、福ではなく呪いになります。その反面、苦難と逆境と欠乏があっても相変わらず主に仕える人は結局にはその全てのことが福になります。ヨハネの黙示録に"幸いである"と記録された七つの節に記録されている"五つの福"を調べてみましょう。第一は、"この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである"としました。

「預言の言葉」は広い意味で聖書全体を指します。現在私達は貴重な神様の御言葉が記録された聖書を容易く所有できて、いつでも読めるからとても有り難くて喜ばしいことです。そして教会では説教者が聖書の節を詳しく解いて説明してくれます。神様の御言葉はこれを読んで聞く者に順従を要求します。意識と言語と生活の方式が神様の御言葉に浸されて聖書的な思考をして、聖書的な言語を話し、聖書的な方法で生きる人が幸いであります。

第二は、"今から後、主にあって死ぬ死人はさいわいである。"としました。

福のある死であるのか、不幸な死であるのかを判断することは主イエスキリストの中での死であるか、外での死であるかということに掛っています。主の中にいる人に死とは永遠な安息に導く関門であり、称賛と冠と賞を与えられる主神様の前に進む家庭に過ぎません。なのでイエスキリストを信じて仕えながら生きて死ぬ人は幸いであります。

第三は、"裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を 身に着けている者は、さいわいである"としました。

22 章 14 節には"自分の着物を洗う者たちは、さいわいである..."と記録されています。ここでの"着物"はイエスキリストによって得る義と聖なることを意味します。イエスキリストによる義の着物を着た人々は新なエルサレムの真珠の門を通じて命の木がある城の中に入るでしょう。従ってイエスキリストが流された贖いの血潮で洗われて義の着物を着た人々は幸いです。

,。 第四は、"小羊の婚宴に招かれた者は, さいわいである"としました。

'小羊の婚宴'とはイエス様を信じて救いを受けた聖徒達がキリストと共に永遠で誠な喜びを享受することを比喩的に表現したことばです。聖徒達の天国生活は喜びの日々になるでしょう。そこには離別がなく、死

がなく、哀痛することや哭することがありません。俗なることや忌むべきことがなく、偽りを話す者がいなくサタンもいません。聖徒達はこのような小羊の婚宴に招かれたので幸いです。

第五は、 "第一の復活にあずかる者は、 さいわいである " としました。

聖徒達の復活は "第一の復活あるいは生命の復活 "として、不信者の復活は "審判の復活 "と言います。イエス様の再臨の時に聖徒達は生命の復活をして不信者達は審判の復活をします。死亡は第一の死亡と第二の死亡があるが、聖徒達には第一の死亡だけあります。第二の死亡は不信者達が審判の復活をして最後の審判を受けて火と硫黄で燃える池に投げ込まれることを言います。

第一の復活に参加する人々の福の内容がヨハネの黙示録 20 章 6 節に記録されています。一つは、第二の死亡が彼らを治める権勢がないので審判を受けて火の池に投げ込まれる恐れを持つ必要がありません。もう一つは、祭司長のように神様と交際をして王権を所有してキリストと共に 1 千年の間を統治するでしょう。従って、第一の復活に参加する人は福があります。このような福は現世にあるどんなこととしても比較で

このような福は現世にあるとんなこととしても比較できないとても大きくて驚くべきな福です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム '緑の牧場、清い川'本の語り中」

恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

今日は、私たちが信じて従う必要があることの 二つに大別してみましょう。

第一は、予定されて神の意志と計画を 信じて従う必要があります。

神が予定なされたのをみ旨と計画は、人がそれ を 信じるか信じないかが関係なく、必ず行わ れます。神のみ旨と計画に対して予告を聞く完 全に信じ従う者の例を示します。神の洪水審判 後、この地に存在するすべての人の祖先となっ たのがノアです。神が計画しなさるのをノアに 予告されました。「**わたしは**, すべての 人 を 絶やそうと 決心した. 彼らは 地を 暴虐 で 滿たしたから, わたしは 彼らを 地とと もに 滅ぼそう. あなたは, いとすぎの 木 で 箱舟を 造り, 箱舟の 中にへやを 設け, アスファルト でそのうちそとを 塗りなさい」 したので箱舟を作る方法を詳しく述べました。 ノアは神が定めたなので、神様が必ず予告した 通り成し遂げことを信じて従いました。ノアは 箱舟を建造する一方、人に洪水審判に対して警 告し、彼らが悔い改めて箱舟に造ることに参加 するように叫んだのです。箱舟が完成した後は、 箱舟に入って行こうと切に言いました。すべて の人々があまりにも腐敗して悪たので聞いてい ません。箱舟が完成した後、神はノアに箱舟に 入ると命じられました。ノアの家族がすべて箱 舟に入って神が7日間の猶予期間を与えている。 しかし、他の人は一りも入らなかった。神は箱 舟のドアを閉めました。結局、ノアの家族を除 いては、すべてが神の洪水審判で滅びました。 洪水はノア 600 歳になった、2 月 17 日に開始 され、地は完全に乾きが回復したときは、ノア 601歳になって、2月27日でした。ノアの家族 は満 1 年 10 日の間に箱舟の中で生活しました。 ノアは神の命令を追って箱舟に入り、「箱舟か ら出てきなさい」という言葉を聞いてもろもろ の命を率いて箱舟から出ました。聖書には、 「ノアは主が命じられたとおりに従って完成し ました」という言葉が重ね記録されています。

信じて従うと、得られる体験

ヘブル人への手紙 11 章 7 節には、「信仰によって、 ノア はまだ 見ていない 事がらについて 御告げを 受け、 恐れかしこみつつ、その 家族を 救うために 箱舟を 造り、 その信仰によって 世の 罪をさばき、 そして、信仰による 義を 受け 継ぐ 者となった」と記されています。

神が善いみ皆で意でである。 を信言れてにとれてにる神のののででであるでででいる。 で意でなれたをはいるでででは、では含まれている。 をはいながののでででもにはなっているがででである。 でででののででである。 でででのが、しばまそれれががのがででである。 ででであるででである。 ででであるでであるでいまれたであるでである。 ででののでであるでいまれたが行いたがでいる。 でであるでいますがでいまれたがでいまれたがでいます。 でであるでいますがでいまれたがでいますがでいます。 でであるでいまがでいまれたがでいますがでいます。 ででののののののののののののではでいますがでいた。 ででは、いまでは、いまでは、にないます。 ととといるでは、いまでは、いまでといる。 ででは、いまでといるでは、いまでといる。 でとといるでは、いまでといる。 でとといるでは、いまでといる。 でとといるでは、にないまでは、にないます。 では、にないまでといる。

第二には、神の品性と言約を信じて祈 らなければなりません。

神が啓示された神の品性と、神が与えられた言 約は、信じて求める人に、問題解決の鍵となり ます。

第一に 私たちは神の品性に頼って求めてくだ さい。

アブラハムは、神の品性に基づいて神に求めました。神はアブラハムを訪問されました。12時頃にアブラハムが天幕の入り口に座っていたが見てみると人三人が渡っているのを見走っ受け入れました。旅人の姿で来られた神様と二人の天使は、アブラハムがあしらった料理を食べました

その後、神はアブラハムに子孫をくださるという言葉をいただいた後起き道を離れました。アブラハムは、それらを送りしにいきました。そのアブラハムはソドム、とゴモラの罪が深くはびこって神がその町をすべて滅ぼそうと決めたということを知りました。アブラハムはすぐに神に懇願し始めました。ソドム、ゴモラは彼の甥ロトの家族が住んでいました。

アブラハムの祈りは、私たちに祈る方法と姿勢 について良い模範を示しています。アブラハム は、神の属性を知り、そこに基づいて祈りまし た。アブラハムが神に懇願した祈りを分析して みるとこうです。 「正しい 者と 惡い 者と を 一緒に 殺すようなことを, あなたは 決 してなさらないでしょう. 正しい 者と 悪い 者とを 同じようにすることも, あなたは 決 してなさらないでしょう. 全地をさばく 者 は 公義を 行うべきではありませんか」(創 世記 18:25) と言いました。これは神の義に基 づく祈りです。 「アブラハム は 答えて 言 った, 「わたしはちり 灰に 過ぎませんが, あえてわが 主に 申します」 (創世記 18:27) と言いました。これは、神の絶対主権に基づい た祈りです。 「たとい, あの 町に 五十人 の 正しい 者があっても, あなたはなお, その 所を 滅ぼし、 その 中にいる 五十人の 正しい 者のためにこれをゆるされないのです か」(創世記 18:24) と言いました。これは、 神のいつくしみに基づく祈りです。

アブラハムは神に "近づく行って"求めます。 アブラハムは義人の数を減らしながら求めました。

「城中に正しい五十がいっても主はそこを滅ぼ し、その五十正しいのための許されないでしょ うか」したので、神が「私はそこに正しい人五 十を見つけた場合は、それらに来た状況を許し あろう。」しました。「五十の義人が不足して いるのであれば、その不足をために町を滅ぼす べきでしょうか?」「もし 五十人の 正しい 者のうち 五人欠けたなら、 その 五人欠けた ために 町を 全く 滅ぼされますか」 主は 言 われた, 「もしそこに 四十五人いたら, 滅 ぼさないであろう」(創世記 18:28) しまし た。アブラハムはますます数を減らして「主要 怒らないで下さい私は今回だけ言葉たたえます。 そこで十人を探したらどううためのですか」の で「私は十人のゆえにも滅ぼさないであろう」 しました。

アブラハムは神に求めにこのように大胆で積極的しました。神は私たちに積極的な祈りをするように勧告しました。詩篇 81 篇 10 節に「わたしは エジプト の 國から、 あなたをつれ出したあなたの 神, 主である. あなたの口を 廣くあけよ, わたしはそれを 滿たそう」しました。 ヘブル人への手紙 4章 16 節には「だから、わたしたちは、 あわれみを 受け、また、 惠みにあずかって 時機を 得た 助けを 受けるために、 はばかることなく 惠みの御座に 近づこうではないか. 」しました。

第二に、神の言約に頼って求めてください。 聖書には、数多くの約束が記録されています。 私たちは、これらの言約に基づいて祈ることが できます。聖書に記録されたすべての約束は、 これを信じて求める者の聖徒たちに非常に優れ た資産です。

第三に、信仰に求めてください。

イエスは彼を訪ねてきて、問題を解決受けようとする人に信仰があるかを確認する質問をされました。そして、あなたの信仰のとおりになれと宣言ました。あなたの信仰があなたを救ったと言われました。

ローマ人への手紙 10 章 17 節には「したがっ て、 信仰は 聞くことによるのであり、 聞く ことは キリスト の 言葉から 來るのである」 と記録された。困難な問題に直面したとき、信 仰がある人は、全能の神の助けを信じて求めな がら最善を尽くして努力します。「人にはでき ない 事も, 神にはできる」(ルカによる福 音書 18:27) この言葉と一緒に、「 あなたが たは, むさぼるが 得られない. そこで 人 殺しをする. 熱望するが 手に 入れることが できない. そこで 爭い 戰う. あなたがた は, 求めないから 得られないのだ」 (ヤコ ブの手紙 4:2)、「そして 彼らの 不信仰の ゆえに、 そこでは 力あるわざを、 あまりな さらなかった」(マタイによる福音書 13:58) という言葉に注意してください。神の力には制 限がありません。しかし、私たちが求めていな く信じなければ神様が力を行わない場合がある ことを知らなければなりません。